



鳥丸通まちづくりビジョン



Vision

『風格と華やぎの烏丸』

Target

- 気品高く良質なにぎわい
- 京都の産業をリード

Before

烏丸通の現状

- ・歩道幅が狭く、仕様もばらつきがある
- ・空地が少なく、ゆっくりできない
- ・街路樹や街灯に統一性がない
- ・夜が暗い etc...



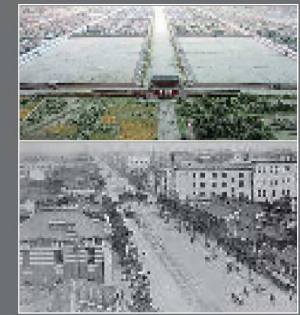
After



Concept

かつて鳳凰が舞い降りたという京都。今も大宮御所、京都迎賓館を取巻く京都御苑がまちに風格を与えている。烏丸通をゲートウェイとして、大正天皇、昭和天皇の御即位大礼時には、駅から御所へ向かうための御幸通りとして整備され、京都の都心軸として発展した。

そのため、四条烏丸を中心に、金融業をはじめ、近代京都をリードする数多くの企業が立地し、京都の発展と共に繁栄してきた。長い時間をかけ、企業の発展と共に、通りを挟んでむかいあった一つのコミュニティ文化を継承しつつ、まちの姿も変化してきた。かつて美しく整備された歩道には、視覚的に烏丸通の歴史を語りかけるコリノキが立ち並び、1200年の古都を思い、昔と今をつなぐまちを感じる。



特に、京都の伝統と風格をもつ烏丸通に点在する歴史的建造物とオフィス群は、繊維産業や金融業を中心に京都の経済をリードしてきた通りであり、今も京都の文化を発信する通りであることを物語る。無機質に見える建造物は、内部に秘めた文化と華やぎを外部に表出している。そのような企業の集まる烏丸通は、東西の出会いや新たな流れを生み出し、異業種交流の場を生み、世界の様々な人々が往来し、国際的な文化や品々や思いが交錯する場所でもある。日本の伝統文化と現代文化（芸術）が融合し、インスピレーションを誘発する。こうして、京都の未来の産業が創出されている。伝統文化が新産業と共存するオフィスやファッションビルが立ち並び、店舗やショーウィンドウが通りを華やかに演出している。

いつも新鮮な輝きを放つ通りは、同時に心地よく、華が通りを飾り、雅な香りに包まれて、歩く人の五感を柔らかく刺激する。人々が少しお洒落をし、上質なたしなみにいそむ大人の雰囲気を感じさせてくれる通りとなる。そして、ここに集まる人たちが、京都の産業、文化を新しい形で発信する。烏丸通は、常に京都の企業力を生み、さらには世界をリードする力ある拠点として成長していく。



そのパワーは京都の風格や華やぎを継承しつつ、次第に烏丸の軸から周りに派生し、まちの形が線から面のまちへと変化していく。

Strategy

① 烏丸ブランドの創出

- 多様な主体の交流
- 直接の情報発信
- 現代美術と伝統文化を融合するイベント
- 「京都の本質」をテーマとしたイベント

京都の文化を発信し、京都の産業を創出し、集積する



② ビジネス・商業サービス機能の集積 (;道を歩くことがステータスとなるような)

- 企業の誘致
- テナントミックスのコントロールと促進
- カフェスペース、リフレッシュスペースへの展開
- 店舗、ショーウィンドウ
- 点在する商業施設をつなぐ演出
- 露店への展開
- 各企業参加のボランティア活動
- 各店舗の回遊性の向上

沿道の一階部分を商業スペースとして活用する

空きスペースの活用

歩道の整備



③ まちなみ景観の形成

- 点在する歴史的建築物のリノベーション
- 明治45年の烏丸通り拡幅当時植樹されたユリノキの再現
- レトロな街灯の設置
- 中央分離帯へのフラッグ設置
- お旅所由緒書きの設置
- 歴史MAP作成

歴史的資源の保全

街路景観の整備

烏丸通の歴史をPR



④ 上質な歩行者空間

- 歩道の美装化と拡幅
- 街路樹の等間隔化
- フラッグポールの設置
- 違法駐輪の罰則や駐輪附置義務の見直し
- 自転車専用道の整備
- 駐輪場増加推進と駐輪対策ボランティア
- 都市型レンタサイクルの整備
- 統一した街灯の設置

歩道の美装化

自転車に関するルールの見直しと環境の整備



⑤ 環境に配慮した通りづくり

- 美しい通りづくり(美化・緑化・啓発)
- イメージポスターの作成
- 乗料金の割引企画
- パークアンドライドの推進
- 観光地誘導のための交通企画
- 透水性舗装の実施
- 植樹の整備と車道センターラインの緑化

公共交通機関の利用推進

京都地下水の確保

歩行者のための環境美化

